

70 本越す議員立法で国政をリード

第3次ネクスト・キャビネットの発足

2001年9月19日にネクスト・キャビネット(以下NCと略)の改造が行われ、第3次鳩山NCが発足した。第3次NCでは、その構成を、小泉内閣の構成にほぼ対応する布陣としたことで、政策議論をより国民にわかりやすく展開し、対決姿勢を鮮明にすることとなった。

NCに政策機能を集中

第2次NC発足時に党の政策策定および方針の決定機能がNCに一元化されたが、第3次NCからは政策調査会長がNCの官房長官を務めることにより、NCと政策調査会の一体化を図り、政策調査会がNCの官房機能を担うこととなった。また、NC会議(NC大臣による「閣議」)が大局的な政策判断に関する議論に集中できるようにするため、総括副大臣会議を定例化して、政策判断の伴わない法案の審査や横断的課題の実務的調整を担わせることとした。

地域NCも連続開催

NC活動を国民の目に見えるものにし、開かれた政策論議を展開するための試みとして2000年に「ネクスト・キャビネットin東海」(愛知)でスタートを切った「地域NC」は、2001年の「in中国」(岡山)、「in四国」(徳島)、「in九州」(福岡)に続き、2002年は大分と釧路で開催した。また、各都道府県連の政策責任者が一堂に会する全国政策担当者会議を2001年9月と2002年7月に開催し、とくに自治体改革政策などについて、地域の声を政策づくりに活かす取り組

みを行った。加えて、2002年もインターネットによる政策公募を実施し、寄せられた様々なアイデアの法案化に取り組んだ。

152回臨時国会(2001年8月7日～8月10日)

7月29日に第19回参議院議員通常選挙が行われたことを受けて召集され、参議院副議長に民主党の本岡昭次議員を選出した。

閉会後の8月29日には、民主、自由、共産、社民の野党4会派の衆議院議員188名が臨時国会召集要求書を提出した。

高祖派選挙違反を徹底追及

また、閉会中も民主党は、参議院選挙比例区で自民党から高位当選した高祖憲治議員の大量の選挙違反を徹底して追及し、153回臨時国会開会前に議員辞職に追い込み、自民党の腐敗体質の根深さを浮き彫りにした。

153回臨時国会(2001年9月27日～12月7日)

9月11日に米国で発生した同時多発テロに対応するためのテロ対策特別措置法案の審議や、深刻化する景気・雇用対策が焦点となった。民主党は議論をリードし、対案や修正案を提案するなど積極的に取り組んだ。さらに、外務省不祥事についても、関係委員会において真相究明を徹底的に求めるとともに、関係者の責任を追及した。

また、行政が混乱と被害の拡大を招いたと言えるBSE(牛海綿状脳症)問題については、万全の安全対策と予算確保などを求めた。

2001年度第1次補正予算は、景気対策に名を借りた従来型の公共事業中心のバラマキであること、中心的課題である雇用対策が規模・内容ともに全く不十分であることなどから民主党は反対した。

理念なき中選挙区復活を一蹴

また、衆議院小選挙区に部分的に中選挙区を導入しようという自公保3与党による「衆議院の選挙制度改悪」も焦点化した。まさに政権維持のために一片の理念すらない案として民主党は徹底的に糾弾、マスコミ・世論の強い批判を喚起し、与党を断念に追い込んだ。

臨時国会ながらも、民主党は雇用対策法案、官製談合防止法案、シックハウス対策法案、危険情報公表法案、テレビ字幕普及法案、迷惑メール防止法案等々25本に及ぶ議員立法を提出し、改革を実現する政党であることを鮮明にした。

154回通常国会(2002年1月21日～7月31日)

2002年度予算は、各種の特別会計での「隠れ借金」、旧態依然たる公共事業バラマキ、医療抜本改革は先送りし国民にのみ負担を押し付けるなど、国民を欺く「粉飾まやかし予算」であり反対するとともに、野党4党をまとめ共同で予算組替動議を提出した。また、鈴木宗男衆議院議員に関連して疑惑が発覚した「支援委員会」関連の予算を削除する予算修正動議も野党4党で提出した。

なお、国会冒頭に提出された2001年度第2次補正予算は、相も変らぬバラマキの繰り返しであるなどの理由から反対した。

疑惑噴出のスクandal国会

アフガニスタン復興支援国際会議へのNGO参加を阻んだ鈴木宗男衆議院議員・外務省と田中真紀子前外相の対立で国会は序盤から紛糾し



民主党の政策を決定するネクスト・キャビネット(NC)

